

テーマ	生活科学部における実践的学び：体験型教育の重要性
発表内容	生活科学部における体験型教育とデータサイエンスに関する紹介
発表者	奥田 紫乃 教授、川崎 祐子 教授、奥村 仙示 准教授

発表概要

女子大学では、今年度よりデータサイエンス・AI 教育プログラム(DWCLA-Ada)プログラムを開始し、「データサイエンス・AI」科目群の中から、所定の単位数を修得することで「DWCLA データサイエンス・AI プログラム修了証」を授与している。生活科学部においても、各学科の学びの特性に対応したデータサイエンス・AI に関する科目を設置し、体験に基づく学びへの連携を図っている。

人間生活学科では、暮らしをデザインする知識・技術の習得をめざし、ICT を活用しながら体験に基づく学びを提供している。暮らしの色彩学では、色覚の多様性を理解することを目的とし、二色覚者のカラーチャートを作成する演習を通してカラーユニバーサルデザイン手法を理解している。地域計画学演習では、京丹後市夢まち創り大学の一環として、京丹後市峰山町でフィールドワーク型授業を実施している。初年度は、地域の現状と課題を見える化することを目的とし、リーフレットを制作して地域に還元した。

食物栄養科学科のうち食物科学専攻では、食物科学全般の科学的理解と実技の修得、およびそれらの学びを支えるデータサイエンスの知識を学ぶ。最近これらに加えて導入された、社会と関わる実践的な体験型科目である食品開発プロジェクトを紹介した。この科目では、協力企業が掲げた課題に対して、学生たちが市場調査や購買層へのアンケート、商品分析を行った結果を基に商品開発や販売促進を目指し、SNS で情報発信するなど ICT を活用した活動を行う。

食物栄養科学科のうち管理栄養士専攻では、管理栄養士の免許取得に向けて、授業や実習が行われている。管理栄養士の就職は、病院、給食施設（学校、保育園）、公務員、企業、研究所などがあり多種多様な場所で活躍しており、業務内容は、調理、献立作成、栄養指導、企業では食品開発や研究などがある。管理栄養士必携の日本食品成分表では、栄養成分が掲載されており、この集合体が食事となる。食事と健康への関りを検討する際にデータサイエンスは既に必要なスキルであり、今後管理栄養士も AI 教育を融合させていく必要があると考えている。

